



# 生活・法律相談

## 11月15日(火)

午後 6:30~

### ぎぶ さとる事務所

3910-7691 巣鴨5-10-3

相談員

## 野口 景子 弁護士

城北法律事務所

## ぎぶ さとる

豊島区議会議員

予約制です。事前にお電話ください。

# 気候危機を打開するために、区がやるべき課題について

私は、第3回定例会で「気候危機を打開するために区がやるべき課題について」と題し一般質問を行いましたので、その概略を報告します。

一、「2050としまゼロカーボン戦略」について

岸田首相は8月、原発の新設を含む原発推進方針を表明。原発の新設は認められない。区長の認識はどうかか。

また、区が目指す「ゼロカーボン戦略」を根本から揺るがすものであるため、撤回することを国に求めるべきだ。

国において適切かつ責任ある判断がなされるものと認識。新設については、今後の動向を注視する、と容認する姿勢に終始。

東京には、建物が高度に集積し、これらの建物関連からのCO2排出量が7割を占めている。エコ住宅・事業者普及促進事業については、2030年までにカーボンハーフを実現するために、来年度予算は大幅に拡

充すべき。また施策の抜本的強化と具体的な計画を示す。また、区に關わる方々にご理解いただくための働きかけを着実に進める。

東池袋1丁目市街地再開発事業でCO2排出量は、従前の3・4倍、5659tも増加する。カーボンオフセットの21年度の実績は、秩父市4・5t、箕輪町7・4t。日本一公園の少ない本区で、どのように削減・吸収

するのかが。環境政策全般を総動員して取り組んでいく。

2030年カーボンハーフに逆行し、CO2排出量を増加させる再開発事業は見直すべき。

見直す予定はない。二、プラスチック分別収集について

プラスチック資源化の流れとして、区は収集・運搬・選別・保管をすること増は避けられません。また、評価委員会は3年間で一度も開催されていません。それにもかかわらず、「イケバスは走っているだけで街の価値を高める」と答弁を繰り返すのみで、到底区民の理解は得られません。駒込在住の高齢者などから「池袋駅周辺をガラガラのイケバスを走らせるより、最寄りの駅や区役所などに接続するコミュニティバス

## イケバスよりコミュニティバスの導入を

イケバスの21年度の関連経費には、1億4千7百万円余の税金を投入しています。当初計画では、年間で180万円の赤字になると言っていますが、スタートしましたが、前年度に引き続き、多額の税金投入をせざるを得ません。昨年度は、大人運賃を200円から100円に値下げし、乗車人数は若干増えました

が、収支は一向に改善されていません。このままの運賃100円で計算すると、1台21乗りのイケバスに1便当たりで72人乗らないと収支をトントンにすることができません。現在、イケバスの不具合が発生し、東ルート(赤字)2台で40分間隔で運行しているだけです。東西ルートは(青字)運休

していません。正規の運行、1日49便をいつ再開できるのか、見通しも立ちません。さらに、イケバスの耐用年数5、6年が迫っていますので、今後もバッテリーの交換や改修経費、突然の不具合での修繕費などを考えると、ランニングコスト

